

宇指圧の心は母心 押せば命の泉わく 宇城市健康フェア

9月27日、「平成20年度宇城市健康フェア」が松橋総合体育文化センター・ウイングまつばせで行われました。

コミュニティアリーナで行われた「赤ちゃんハイハイ大会」では、55人の赤ちゃんが参加。家族総出による大応援団の奮闘もあって会場は大いに盛り上がりました。

また、同会場では、母子保健推進員による「親子でつくろう手作りおもちゃコーナー」やメディカルカレッジ青照館(三角町波多)による「体力測定・ストレスチェックコーナー」、包括支援センターなどによる「介護相談コーナー」、「骨密度・足指力計測コーナー」などが行われました。

午後1時からは、文化ホールで、健康づくり地域活動実践発表(三角町西港2区・中野茂文さん)があり、その後、国際指圧協会会長の浪越満都子さんによる「宇指圧の心は母心 押せば命の泉わく」と題した講演がありました。



浪越さんは、体の部位ごとの指圧について実技を交えて説明

風 昔話と音楽の夕べ 風の館・塩屋で「十三夜コンサート」



語りと音楽の世界に酔いしれました

10月4日、小川町商店街にある「風の館・塩屋」で「十三夜コンサート」が行われました。

この日は、昔話の収集・語りや音楽発表など幅広い文化活動をしている「三角ふるさとの会」(四丸省司会長 会員9人)が出演。三角町に伝わる「だご汁地藏さん」「お爺婆山(じんばさん)物語」が音楽や影絵などと共に語られ、歌唱・マリンバ演奏・童話朗読も披露されました。約50人の参加者は、語りと音楽の世界を楽しんだ後、お月見団子に舌鼓を打っていました。

このイベントは、平成10年に小川町の退職校長会有志が中心となり青少年健全育成を目的に活動している「自然学校『風の子』」(澤村格代表 会員58人)主催によるもので、「市民提案型まちづくり1%事業」の一環として取り組まれました。

100歳おめでとうございます いつまでも元気に笑顔で

10月1～2日、敬老の日に先立ち、今年も阿曾田清市長による長寿者への表敬訪問が行なわれました。長寿者の自宅や特別養護老人ホームなどを回り、「元気で長生きしてください」「長生きの秘訣(ひけつ)は」などと談笑しながらちゃんちゃんこなどの記念品とお祝い状が贈られました。

市内に住む、今年100歳になられる方は21人。訪問後、市長は「こんな元気な100歳の方にお会いして、たくさんお話ができて大変うれしい」と顔がほころばせながら話していました。

10月1日現在、宇城市に100歳以上の長寿の人は28人。最高齢は105歳の女性です。



これからも一層お元気で長生きしてくださいね!

秋 赤ちゃんの健康とすこやかな成長を願う 秋の風物詩 曲野相撲

9月23日、曲野神社(松橋町曲野)で恒例の「赤ちゃん土俵入り」や「幼稚園小学生相撲」が行われました。曲野神社の相撲は、「曲野相撲」として県下に名をとどろかせた伝統行事で、秋の風物詩となっています。

この日はまず、県下各地から集まった7人の相撲取りが土俵入りし、「相撲甚句」が披露されました。その後、67人の赤ちゃんが白のまわしに紅白の鉢巻姿で、相撲取りの腕の中に抱かれて土俵入りしました。

今年は、「女兒が参加できないことを不思議に思っていた」という青年団の意向に、「男女共同参画の世の中なので」と関係者が賛同。初の女兒の土俵入りがあり、長い伝統行事に約10人の女の赤ちゃんが新しい1ページを刻みました。



初の女兒の土俵入りに大きな声援が飛び交いました

排水機場管理人研修に参加 農地の湛水被害を最小限に



ポンプ運転を行い管理技術の向上を図りました

9月26日、熊本県土地改良事業団体連合会主催の「基幹水利施設管理技術者研修」が、小川町益南(えきなん)排水機場で開催されました。県内各地から排水機場管理人と関係土地改良区職員60人の参加がありました。

これは、農地の排水機(ポンプ場)を管理している水利組合や土地改良区が施設の維持・管理技術向上のため開催しているものです。

研修では、電気設備の管理・電気事故防止のための注意事項やエンジン・ポンプなどの点検・管理方法と故障時における対応などがありました。(小川町土地改良区)

高潮犠牲者12人を悼む 遺族らが初の慰霊式典

平成11年9月24日の台風18号による高潮災害で12人の犠牲者を出した不知火町松合で、9月23日、遺族ら約130人が参列して慰霊式典が行われました。

現地で、松合高潮災害復興促進委員会(中尾繁市会長)が「鎮魂之碑」を建立したのを機に、初めて開かれたもので、蒲島郁夫知事(代読)や阿曾田清市長らがあいさつしました。この慰霊碑は、宇城市内外から寄せられた浄財で建立されたもので、遺族代表が書いた鎮魂の碑の文字と、犠牲になった12人の名前が記されています。

被災から9年を迎えた今も、現地では被害を受けた宅地のかさ上げなど災害復興工事が続けられています。



参列者らが故人の冥福を祈りました